



(左) 代表取締役社長
竹腰 秀則 様

(右) ソリューション開発部
CFD コンサルティングチーム 課長
山田 豊 様

(2006年度 熱流体2級、
2007年度 熱流体1級・燃焼流 合格)

現在ご担当のお仕事について教えてください。

山田:CFD のシミュレーションコンサルティングを行っています。お客様の課題に「CFD を導入するとどうなるのか?」ということを計算してご説明し、より良いソリューションをご提案しています。

計算力学技術者資格を取ろうと思った理由は何かですか?

竹腰:当社にはシステム開発系の評価基準が既にありましたが、CFD コンサルティングチームにはそれをうまく適用出来ず、困っていました。技術士資格では分野が複数にまたがってしまうし、他に適当な資格試験も見当たらない。

山田:適切な資格はないだろうか、と探し続けたところ、計算力学技術者資格と出会いました。

合格なされて、ご自身に何か変化はありましたか?

山田:シミュレーションサービスの質を対外的にアピール出来るようになったと思います。やはり、資格取得は技術者の能力や業務の質の担保となり得ますからね。また、前述のような事情から、計算力学技術者資格をチーム内の評価指針にすることとし、部下を受験させました。

部下の方へアドバイス等はなさいましたか?

山田:はい。私が講師を務め、社内で流体力学の講義を実施しました。週に1~2回のペースで約5ヶ月間行いました。その際、標準問題集の他に大学レベルのテキストを補助的に使用しました。

「学習のコツ」は何でしょうか?

山田:まずは問題集をざっと見渡して、自分が理解出来ている章とそうでない章を分類することですね。2級は範囲が広いので、極端な苦手分野があると不利ですので、それを潰すことが先決です。また、2級試験は (1)大学レベルの理論 (2)ソフトの基本的な使用方法 (3)業務を通じて経験として学ぶ内容 がバランス良く配分されているので、まだ業務経験が少ない方は(1)を押さえて基礎を固めてしまうことをお勧めします。

今後、採用活動や人材教育において、計算力学技術者資格をどのように活用していきたいとお考えですか?

竹腰:当社は「お客様第一主義」を掲げています。専門性をビジネスとして展開していますが、そのための大前提としてヒューマンスキルが不可欠となります。当社の求めるコミュニケーション能力を備えた人材に対し、計算力学技術者資格の取得を積極的に奨励していきたいと考えています。

これから計算力学技術者試験に挑戦される方へ、アドバイスをお願いします。

山田:当たり前のことですが「わからないことをわからないままにしない」ことが大切です。まずは自分で調べる。それでもわからない問題にぶつかったら、周囲の先輩方に尋ねてみましょう。経験を活かした良い助言が貰えると思いますよ。

ありがとうございました! (取材日:2008/2/6)